

今月のテーマ

Evening Seminar

ここまでできる在宅医療！シリーズ ⑥

うしおだ在宅センター 「ここまでやりたい在宅医療」



8月24日(木) 汐田総合病院会議室にて、「ここまでできる在宅医療」シリーズの最後を飾る「うしおだ在宅センター」塩田純一先生、平野晃司氏、田中重孝氏の3名がリレー形式でご講演をいただきました。参加者は78名で、内容は「人口動態予測から考える在宅医療の需要予測」「うしおだ在宅センターとは何か?」「ここまでやりたい在宅医療」と在宅医療を取り巻く現状と、今後の目指す方向性についての説明がありました。在宅医療の需要予測では、高齢者の増加により通院困難患者が増え、外来患者の減少と外来通院できない脆弱な人の増加。訪問診療の需要、そして在宅での看取りが増加することが予想されています。その現状をうけて、①訪問診療の受け皿増。②多職種連携の構築③病院との連携による健診。④終末期医療とDNAR ⑤訪問診療のレベルアップを課題として挙げられました。

また、在宅センター化することによりMSWの配置する等法人の在宅部門のコーディネータ的役割を担い、受け入れ患者数の増加と質の向上を目指し、在宅クリニックと訪問看護、ケアマネが共通患者を受け持つことによりきめの細かい情報共有を行い在宅医療の充実を図っていくとのお話がありました。参加者からは、「患者さんの家に帰りたくないという気持ちを実現させるため法人として力を付けていかなければならない」などの感想が聞かれました。



うしおだ総合ケアセンターロゴマークが決定！

先月、うしおだ総合ケアセンターのイメージイラストをご紹介しましたが、グループビジョンを視覚的に伝えるもう一つのツールとしてロゴマークを決定しました。うしおだグループの「U」の字をモチーフに、私たちのめざす無差別平等の地域包括ケア「住み慣れた地域で障害を持つ人も、高齢の人も、子供も、困窮した人も、すべての人たちが自分らしく、そして助け合いながら暮らしていくこと」地域でかかわりあう人々を点で表現したものです。

川のまちエリア会議の模擬訓練に向けて、
～認知症サポーター養成講座～

9/12(火) 汐田総合病院会議室にて認知症サポーター養成講座を行いました。川のまちエリア会議の「認知症SOSネットワーク模擬訓練」を11月に控え、地域住民の方を対象に行ったものです。講師はリハビリ課の雨宮氏。ケアプラザと自治会役員の方による寸劇もあり、認知症で家にかえれなくなっていると思われる方への声掛けや、警察への通報の方法などを学びました。



メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます♡

汐田総合病院 会場：ラウンジぴゅあ（病院2階）

9月14日(木) 10月12日(木) 14:00-16:00

うしおだ診療所 会場：友の会汐田・向井町支部事務所

9月14日(木) 10月14日(木) 14:00-16:00



おすすめ書籍

在宅医療をはじめよう!

非がん患者の自宅での看取り

前月に続き在宅医療がテーマです。日本の医療は戦後、世界トップレベルを実現してきました。ただ、一定のレベルまで高齢化が進み、治そうとしても治らない病気や老化で亡くなっていく多死社会となり、医療そのものが転換期を迎えているのです。最期まで治し続けるだけではなく、治せなくても、しっかりと老化や死に向き合い、亡くなるまでよりよく生きることを支える医療への転換が求められています。その実現に向けて、在宅医療の手法や考え方は解決への大きな鍵となることでしょう(序文より)



著者：永井康徳



スタッフのひとこと

今年の夏は各地でのダムの貯水率が低下しているニュースを見ていたかと思ったら、長寿記録の台風や、各地での豪雨による災害。連日の雨が続くなど、変な天気が続いていますね。子供の頃、地球温暖化という言葉が出てきて、TVで「そのうち日本も熱帯地域みたいにスコール(局地的な悪天候)が降るようになるかもしれない。」と聞いて、さすがにあり得ないと思っていたものですが、最近の天気をみていると予言が的中してきたように思います。台風も大型化して、世界中に被害がでているようですし、温暖化対策も待ったなしのようです。T・S



うしおだ総合ケアセンター

We aim to build a non-discriminatory Integrated Community Care System that supports all